

【福岡県福智町】

校務DX計画

福智町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度末に児童生徒用・指導者用の一人一台端末と校内ネットワークの整備を行い、令和3年度より授業及び校務全般においてICTの活用を推進してきました。また、町長部局とも連携し、福智町DX推進計画との融合を図ることを目的に、総務課DX推進係、学校、教育委員会で組織する福智町「教育の情報化」担当者連絡会を立ち上げ、本会を中心に情報共有、協議、研修等を通して、「校務の情報化」を推進し、授業や校務におけるICTの効果的な活用に向けて取り組んでいるところです。

ICTの活用は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現に必要なだけでなく、教職員の働き方改革を進めるうえでも、極めて重要な役割を担います。ICTを活用して校務の効率化を図ることで、教職員の働き方改革を推進するとともに、教職員の事務負担等を軽減し児童生徒と向き合う時間を確保することにより、本町における教育の質の向上を図ります。

今後の校務DXの推進については、各学校現場の意見を十分に反映しながら、次のような内容を中心に取り組んでいきます。

1. 統合型校務支援システム

現在、本町では校務支援システムを導入しておりません。先進地を参照しながら、教職員の働き方改革を目指し、導入に向け、検討、検証を行います。

2. FAX・押印の原則廃止

FAXと押印の原則廃止は、校務の効率化、ペーパーレス化、教職員の働き方改革を達成するための重要な要素となります。令和7年度中の原則廃止に向けてメールやクラウドサービスの活用を進めるとともに、各種関係機関等に対しても、慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

3. 学校・保護者間の連絡システム

本町では福智町DX推進係が進める公式LINEを活用した、学校と保護者間の連絡用アプリを導入して、学校から保護者への連絡の配信や保護者からの欠席連絡等をデジタル化し、利便性の向上と業務負担の軽減を図っています。懇談会の予約や家庭訪問のスケジュールリング等、教職員の負担感がある業務をLINEの機能で緩和できるよう、今後も学校と保護者間の連絡手段のデジタル化を推進していきます。

4. デジタルドリル・デジタル指導書の導入

小中学校ともにデジタルドリルの活用が進み、授業での利用はもちろん、家庭学習や不登校支援、特別支援教育など、様々な学びの場でその効果を発揮しています。従前のペーパーでの課題作成から解放され、その時間を児童生徒へ還元できるようになっており、今後は実際の使用状況の調査研究を元に、より効果的な活用の場の模索や、CBT化に向けて児童生徒のCBTへの対応スキルの向上を図る研修や情報交換を行っていきます。

また、教科書改訂に合わせたデジタル指導書の導入により、小学校において全教科導入したデジタル指導書は、書き込みや付箋、総ルビや音読等の機能のほか、手順や解答、資料や図表等のスライド教材、導入や基本技能、観察・実験やシミュレーション等の動画教材、思考ツールやまとめのワークシート等、さまざまなコンテンツが單元ごとに用意されているため、これらを組み合わせて教材とすることができ、

電子黒板と組み合わせることで多様な学びの手法を展開できるようになりました。加えて、全小学校で導入したことで、教員間の指導力の平準化と、教材研究の幅の広がりが生まれ、小学校教員から教材作成や教材研究の効率化につながったという高い評価を得ています。令和7年度には中学校の教科書改訂があるため、中学校にも展開していくとともに、より効果的な活用場の模索、研修や情報交換を行っていきます。

5. アンケートのペーパーレス化

これまで集計等に多くの時間を必要とした児童・生徒や保護者への調査・アンケートを行う際にクラウドサービスを活用して実施するようになってきているものの、学校間で利用率にばらつきがあるため、今後も学校への働きかけを行い業務時間や経費の削減を図ります。